

仙台市太白山自然観察の森 情報誌2026年 9月号 No.420

森のおくいもの 9

オヤマボクチ（キク科）とアキアカネ



いつの間にか空が高くなり、夕暮れが早くなってきました。気温はまだ高くても、ハギやアザミ、野菊の仲間など秋の草花が開花し始めています。写真のオヤマボクチは、アザミの仲間、葉裏の毛が火を熾すための着火剤「ほくち」になることからこの名があります。火が恋しい季節までもう少し。長月の森で、素敵な出会いがありますように。 【館長：濱中郁子】

森のことは

自然の様子やできごとを四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします

『彼を知り己を知れば百戦危うからず』

最近、日本国内でも大きな自然災害が発生し、ニュースを目にして自然の脅威を感じます。地震、台風、大雨、洪水、山火事など、様々な災害がいつどこでどのくらいの規模で起きるのかわからないのも、尚更恐怖心を抱きます。

9月1日は防災の日です。大正12年9月1日に発生した関東大震災の教訓を忘れず、様々な自然災害に備える心を育くむため、昭和35年に制定されました。台風の襲来時期でもあることから、災害への備えを怠らないようにという戒めも込められています。

何が起こるか予知できない大きな自然災害に対しては、現実感がありませんが、自然に潜んでいる危険なものが身近な場所にけっこうあります。皆さんが先ず思い浮かべるのはクマかと思いますが、通常では遭遇率は高くありません。ハチや毛虫に刺される場合もありますが、それよりも数がたくさんいるマダニに注意が必要です。マダニに咬まれると重症熱性血小板減少症候群（SFTS）や日本紅斑熱など、感染症を引き起こすおそれがあります。これらの危険については、藪に入って行ったり肌を露出させたりしないようにするなどの対策をすれば避けることができます。

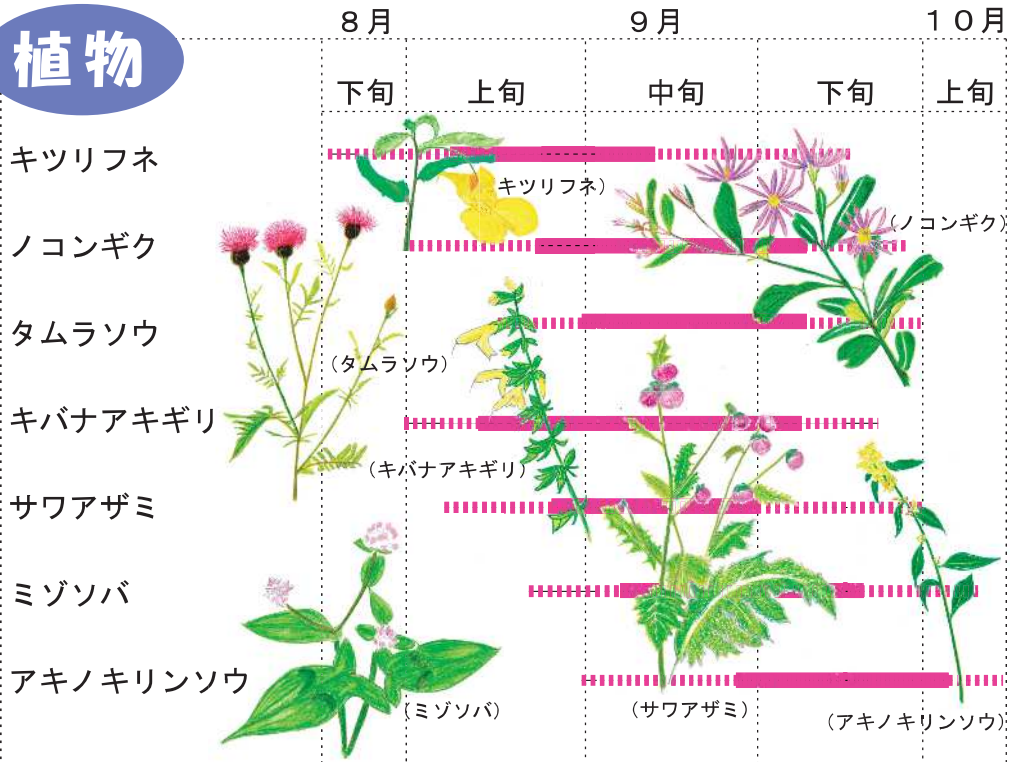
古代中国の思想家孫子の言葉に「彼を知り己を知れば百戦危うからず」があります。これは「相手と自分の状況を正しく理解していれば何度戦っても負けることはない」という意味です。これは兵法についての言葉なのですが、現代では「敵の実力や動きを把握し、同時に自分の長所や短所も客観的に知ることによって危ない目に合わずに済む」という意味についてスポーツやビジネス、就職、受験などの勝負に際して座右の銘として使われます。自然災害や危険生物に対しての心構えとしても使えると思いました。

世界でも自然災害の報道を目にし、いずれも地球温暖化に起因していることが多く、想定外に大きな被害が発生しています。今までの常識が通用しない状況なので、成す術もなく負け戦となりませんように。【レンジャー：新田隆一】



9月の生物ごよみ

植物



全国的には西日本を中心に厳しい猛暑日が続いたこの8月ですが、仙台は比較的涼しく、昨年と比べても過ごしやすい日が多く感じられました。そうした気候のもと、自然観察センターの周辺では着実に季節が歩みを進めています。

まず、園内の「トンボの沢」では、鮮やかなオレンジ色のキツネノカミソリが咲きはじめました。緑豊かな木々の中でパッと目を引くその姿は、夏の終わりと秋の始まりを告げる風物詩です。

また、フィールドの散策路を歩いていると、青々としたドングリのついたコナラやクヌギの枝がたくさん落ちているのに気づきます。これは「ハイロチョッキリ」というチョッキリゾウムシの仕業です。ドングリに卵を産み付け、それを枝ごと噛み切って地面に落とすというユニークな習性によるもので、足元にもいきものたちの営みが広がっています。

そして館内では8月20日にスズムシが今年最初の美しい声を響かせ始めました。スズムシは昭和46年に「仙台市の虫」としても指定されている、仙台の秋にゆかりの深い虫です。その涼やかな虫の声に、訪れたみなさんも耳を澄ませています。まだまだ残暑は続きますが、森の中には少しずつ秋の気配が満ちてきています。暑さ対策を万全に、ぜひ季節の移ろいを探しに観察センターへお越しください。

【レンジャー：齋 正宏】

森の「あれこれ」



「ヤマガラとエゴノキ」



9月の観察の森では木々の葉がすっかり茂り野鳥の姿を探すのが難しい季節です。ところが、この時期にエゴノキの樹を探すと実を目当てに集まるヤマガラの姿をかなりの確率で観察できます。左の写真1枚目と2枚目はキョロキョロとまわりを警戒しながら種を食べているところです。ヤマガラは実を足で器用に固定し強靱なくちばしで何度もつついてカラを割り、中の仁だけをとりだしてを食べることができます。

エゴノキの実には他の生きものに食べられないよう有毒で強いえぐみのあるエゴサポニンが含まれ、さらに硬い殻で守られていて、多くの野鳥や動物は敬遠します。一部の昆虫やネズミなどが利用しますが観察の森で圧倒的に活用しているのがヤマガラです。

さらに秋の間に収穫した大量の実を樹皮のすき間や木の根元、落葉の下などに一個ずつ分散して隠す「貯食」という行動をとります(写真3・4枚目)。

しかしヤマガラが隠したエゴノキの実がすべて回収されるわけではありません。運よく食べられなかった種は、やがて春を迎え、芽吹き、成長し美しい花をつけ、実をつけるでしょう。その実は自分を運んでくれたヤマガラの子供たちの命を支えるのかもしれませんが(最後の写真、コナラの根元から生えた幼木)。

【レンジャー：木田秀幸】

いきものの森



今回は僕もたまにしか出会えない虫たちを紹介したいと思います。① 蛇に擬態してと言われる「アケビコノハ」と同じく ②「コスズメ」という蛾の幼虫です。③ エイリアンのような「バイバラシロシャチホコ」と言う蛾の幼虫です。④ テントウムシに擬態してと言われる「アカイロトリノフンダマシ」というクモの仲間です。⑤ 金属光沢が美しい「ドウガネサルハムシ」⑥ 地味な感じですが、2億年以上前の姿を現在に残す【生きた化石】と呼ばれる原始的な甲虫だそうです「ナガヒラタムシ」



8月は上旬がまだ雨が残りましたが、夏らしい暑さに戻りました、いろいろな生き物たちにも出会えて賑やかでしたが、9月にはいると少し落ち着くのではないかと思います、体調管理に気を付けてお過ごしください。

【レンジャー：菅井 潤】

イベント & お知らせ



◆「きのこ観察会」

- ・ 10月3日(土) 10:00 ~ 11:30
- 【対 象】小学生以上 (中学生以下は保護者と参加)
- 【申込み】Eメールにて 9月21日(月) 必着(抽選)

◆「ミラーレス一眼カメラで楽しむ自然のアート」

- ・ 10月10日(土) 10:00 ~ 15:00
- 【対 象】小学生以上 (中学生以下は保護者と参加)
- 【申込み】Eメールにて 9月28日(月) 必着(抽選)

◆「むしむし探偵団」

- ・ 10月11日(日) 10:00 ~ 12:00
- 【対 象】小学生以上 (中学生以下は保護者と参加)
- 【申込み】Eメールにて 10月1日(木) 必着(抽選)

◆「晩秋の秋保二口林道ウォーキング」

- ・ 11月7日(土) 10:00 ~ 14:30
- 【対 象】小学生以上 (中学生以下は保護者と参加)
- 【申込み】Eメールにて 10月31日(土) 必着(抽選)



※ 申込み専用メールアドレス taihaku@sendai-park.or.jp

自然観察の森の最新情報やイベントへのお申込み、
「森のおくりもの」バックナンバーはQRコードから



9月の休館日

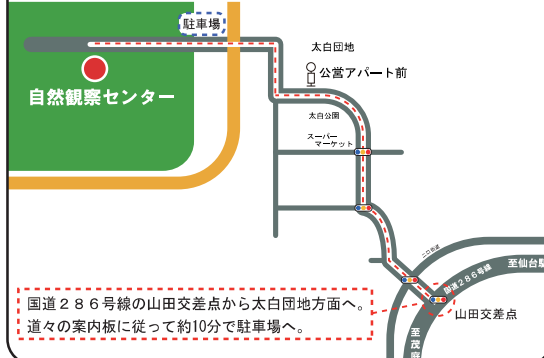
毎週月曜日(7日, 14日, 24日, 28日)

※月曜日が祝祭日の場合、翌日以降の平日が休館

駐車場から徒歩約5分で到着



自家用車の場合



国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。



宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
 - ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
 - ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分
- ※③のみ乗車可「太白団地、山田自由ヶ丘經由仙台南ニュータウン行」
【行先】①②③ 「太白団地經由山田自由ヶ丘車庫行」乗車
いずれも 公営アパート前 下車→ 徒歩15分

2026年 9月号

発行：(公財)仙台市公園緑地協会

編集：仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター

〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森36-63

TEL: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133